

菟田野小だより「桜梅桃李」

No.20

令和4年 11月24日(木)

(<http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

6年：広島袋町小との平和交流

11月18日(金)に6年生が広島市立袋町小学校の6年生とオンラインで平和学習の交流を行いました。袋町小は、広島市でも平和学習に熱心に取り組んでいる小学校です。

ZOOMでつながった6年生は、7班に分かれて自己紹介とそれぞれの平和学習の取組の交流をしました。自分たちとは違う平和学習の取組の内容を聞いて、6年生は刺激を受けたようです。その後は、平和に限らない奈良・広島ご当地トークで盛り上がりました。

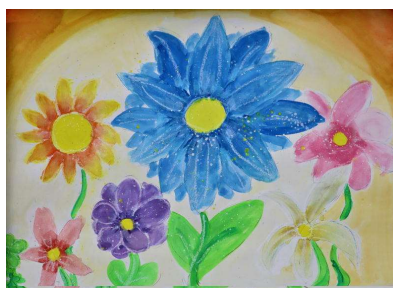
ところで、夏には広島市内の掲示板に名簿が貼り出されます。「遺族を探しています」と。そこには、原爆で亡くなった方々のうち、遺骨の引き取り手が見つからない814人の名前が記されています。遺骨は平和記念公園内の原爆供養塔に安置されています。名前も分からない遺骨を含めると約7万體。ガイドを務めるある女性は、「7万人の中に、それぞれの生活、家族、未来があった。原爆の悲劇は、単純な数だけでは分かりません」と語っています。



特攻隊員だった作家・神坂二郎氏は「本当の供養は『忘れないこと』だと思う」と。被爆者のために“不忘の誓い”を新たにすること。次代を担う青少年たちの“意志”によって、核兵器に命を奪われた方々の“遺志”は受け継がれると感じました。



(5年生の調理実習)



(4年生の作品)

4年：手話との出会い

11月16日(水)に4年生が手話学習を行いました。講師は、宇陀市聴覚障害者協会の関係の6名です。

まず、手話でのあいさつを教えていただき耳の不自由な方の生活の一端を紹介していただきました。音が使えないため、目覚ましや緊急を知る手段として光や振動を使うことに子どもたちは驚いていました。次に空文字や口話を使った伝言ゲームやジェスチャーカルタをして遊びました。



4年生の総合学習では、テーマの一つに「福祉」があり、これまでに車いすやアイマスク体験もしてきました。なかま集会で全校に向けて発表し、12月の人権フェスティバルでこの取組の展示をします。ぜひご覧ください。

マラソン大会の前日に伝えたいメッセージ

今週、サッカーW杯カタール大会が開幕しました。94年アメリカ大会で準優勝した元イタリア代表の名選手だったロベルト・バッジョ氏は、自身の勝負哲学をこう語っています。「あるレベルまでいくと、技術的な差はない。どれだけ集中できるか、自分の力を最後まで出し切る気迫があるかという精神面での差が、非常に大きく出る。『勝利』への執念の強い者が競り合いに勝つ」と。

人間は、持てる力の80%しか使わないと、いつしかそこが限界点になってしまいます。「もう一歩！」と挑戦する中で、能力は110%、120%と増大し、壁を破る原動力となります。どんな困難も“絶対に勝つ”と決め、挑んでいく中に、勝利という最高の結果はおのずとついてくるはずです。

いよいよ校内マラソン大会が明日になりました。沿道の拍手での応援を力に変えて、歩きたくなる気持ちに負けず、自分の持てる力を最後まで出し切る姿を期待します。